

25.多剤耐性緑膿菌(MDRP)による 院内感染症発生患者数

項目の解説

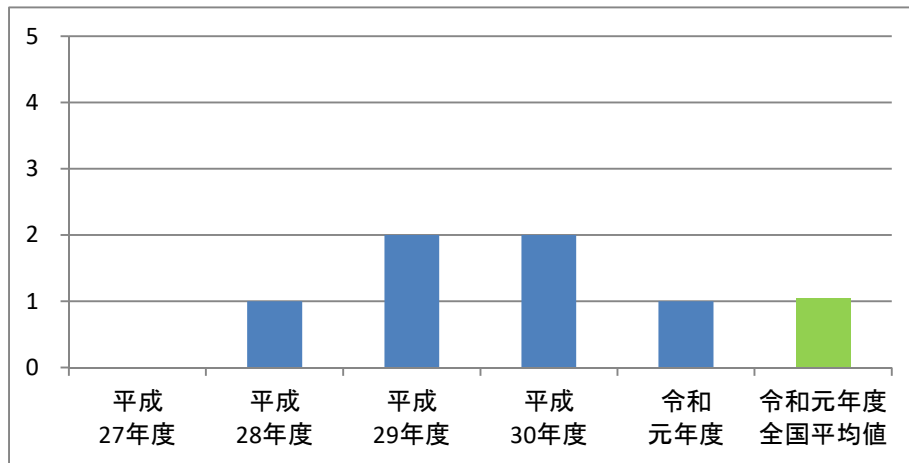
免疫力の低下した患者が多剤耐性緑膿菌(MDRP)に感染すると、難治性の感染症を引き起こし死に至る場合があります。病院内の手洗いを励行する等、適切な院内感染予防対策により、発症頻度を減じることが可能です。当該指標は、院内感染予防対策の実施とその効果を示す指標です。

日本全体で、MDRPが減少傾向にありほとんど発生しておりません。3系統すべての薬剤に多剤耐性となる前の2系統耐性の緑膿菌に対しても、迅速な院内感染対策を実施し、注意しているところです。

当院の実績

平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和元年度 全国平均値
0	1	2	2	1	1

(人)



全国平均値は国立大学附属病院の平均値です。

定義

各年度1年間の新規MDRP発生患者数です。
保菌者による持ち込み感染は除き、入院3日目以降に発生したものを計上します。

